チャオ・ベトナム

JAPA VIETNAM 会報

NO.54　　発行者：ジャパ・ベトナム事務局　発行日：2017 年 10 月 19 日

◆貧しい人々への支援を考え直したい・・・１
◆スマイルグループ”三度目の訪問”
　—あたらしい支援の呼びかけー・・・・２
◆夏の支援先ツアーに参加して・・・・・・４
◆ベトナム初視察旅紀行・・・・・・・・・５
◆ジャパ・ベトナムの教育支援について・・・・６
◆ホーチミン市活動拠点—ボランティア募集・・６
◆寄付者一覧、お知らせ・・・・・・・・・・・７
◆会計報告・・・・・・・・・・・・・・・・・８

貧しい人々への支援を考え直したい

安藤　勇

私たちは、8 月 30 日午前、HCM 市の市民ボランティア団体の本部を訪れた。玄関でそのボランティア団体のリーダー、Van さん、が私たちを迎えに来ていた。2 階に案内され、大きなホールには 20 人ほどの女性たちは床の上に座ったままに私たちが来るのを待っていた。

彼女らからの話を聞いて分かったのは、皆が HCM 市のスラム街の方々で、最近 Van さんたちが開始したマイクロファイナンスのプログラムに参加している。明るい雰囲気の中で、彼女らは次々に自分の経験を伝えてくれた。

ご存知のように、貧しい人に無担保で少額を融資し、生活向上を手助けする「貧者の銀行」がつくられ、世界中特に途上国の中で割合によく知られている。その中で、バングラデシュの経済学者ムハマド・ユヌス博士が 1983 年に設立したグラミン銀行は大変有名で、彼は 2006 年ノーベル平和賞を受賞した。グラ

ミン銀行は貧しい人の就労や企業をサポートすることによって、貧困から立ち上がるのを手助けする目的を持っている。

Van さんたちのホールに集まっていた女性たちは少額のお金を借りて、日常生活が楽になり、小さな店や仕事用のバイクも買うことができ、家も直し、そして借金を返すこともできた。次のような話も聞かれた。「私はある所からたくさんの金を借りることになって、その元本を返す能力がなく、毎月滞納する利子だけを払うためにこのマイクロファイナンスに参加し、そこからお金を借りて大変助かっている。」彼女は友達から Van さんたちの団体を初めて知って、大変感謝している。以前、ある貸主団体からお金を借りた彼女は、月30%ほどの利子が付いていたため、利子の支払いだけで大変困っていた。ところが、それに対して、このマイクロファイナンスは貧しい人にお金を貸す時には、年 3% ～6%の利子だけで貸すと知って救われた。

東京に戻り、9 月 18 日のスペインの大手新聞に開発援助の大学専門家が発表した興味深い

記事が目につき、ベトナムで見てきた HCM 市内スラム街の女性たちを想い出した。その記事の表題は「マイクロファイナンスの失敗」。つまり、その記事は開発援助が貧しい人たちにどう資金を融資すればいいかを再考する必要があると訴えている。普通、マイクロファイナンスは貧しい人たちがただ生き残るための最も必要なニードを満たして行き、経済開発を起こしていない。今の社会・経済などの制度を変える力がない。その結果、貧困から脱却するため、どこまで手助けになるのだろうか。

また、現場の方々の声を聴いてみたい。

“スマイルグループ”三度目の訪問”―あたらしい支援の呼びかけー

平井　裕

ホーチミン市　Binh Thanh 区というサイゴン川を越える手前で地下鉄が伸びて開発が進む地域の、少し住宅が密集しているところに、以前と変わらず小さな家の中に支援先の一つ、スマイルグループの活動の場が有ります。

今年も、子供たちの笑顔にむかえられて、リーダーの　Minh Phuong さんにお話が聞けました。Minh さんは、日本語の知識もあり、英語も達者な大変快活で理性的な方で、だれもが引き付けられます。

この一年間の活動としては、これまで続けてきたのは、麻薬にはまったり、HIV／AIDS に罹った貧しい家族の元で暮らす子供達、親の居ない子供達（小、中、高校生）に対して、様々な支援をしています。人数は、26 人（3 歳から主に 8 歳から 18 歳まで。17 家族から。）で、活動日は、週末土日で、生活の決まりごと、道徳の教育、学業の補習、課外活動とし

て、コンピュータの勉強、電子ピアノで音楽教育などを学んでいます。

今現在フランス系企業からの支援が継続的に続いているので、資金的には大きな問題は無いが、活動支援の人材が不足しています。これまで指導してきたボランティアが辞め、フランス人の方も、年に 3 か月の滞在に減っています。土日以外に、Minh さん一人で家庭訪問をし、日頃の問題のフォローをしていますが、土日の活動のボランティアを是非増やさないと活動が止まりかねない。幸いなことに、食事等の手伝いをして下さる方が居るようで、訪問日も若い学生方と共に準備をしていました。新しい活動として、水泳の講習、映画鑑賞、音楽教育、植林、物づくり等を考えているようです。パートタイムでも良いので足りないボランティアを増やさないと思うようにならないとのことでした。昨年から行っている石鹸作りは、上手く行っているようで、原料供給先のホテルに出来上がった製品を買い取ってもらっています。

これまでの援助が十分で無い支援先に関して、他の資金源からの援助を得る話をこの施設に対しても進めてきましたが、なかなか思うようになっておりません。その理由としては、NIH（Not Invented Here）に対するこだわりがあるように思います。すなわち、自分達が初めて携わることを固執し、他人がやっていることに合流したくないこだわりがあるように感じています。（そこまで言うか？）

一方で、外部の支援組織からメガネの支給、フランスのホテル（ACCOR）からの援助、食糧（月 50kg の米）の支給もあるようです。これまでの活動を、外部に知らせることは、小冊子を作って行っていますが、これから、もっと外部に宣伝することは必要で、FB 等で行う、また教会への働きかけも積極的にした方が良いとの意見もありました。

この施設から卒業された方たちが、上級学校に行く、社会に出て行くことで、この施設が徐々に知られていくことでしょう。卒業した後の子供達が社会の中で上手く行かない例もあるようで、昨年、専門学校に入学した 3 人のうち 2 人は、退学したとのことです。一方で、外資系の大学で優秀な成績を残している学生（Yen さん）もいて、2 年後にこの施設で働いてくれる期待があります。この施設に居て、子供たちの悩み等を聞き、相談することが重要であると考えて、カウンセリング室を設け、セラピーを勉強している Minh さんがその役割も果たしています。卒業生に対する偏見もあり、また AIDS に対する差別はまだ深刻ですが、教育レベルの高い人達からの理解はあるようで、少しずつ変わっていくでしょう。

夏の支援先ツアーに参加して

櫻井　實

ジャパ・ベトナムのツアーに、3 回目の試みでようやく参加できた。

ハノイからベトナムに入国、空港ターミナルはこじんまりしているものの、最新の素晴らしい建物であった。　私が初めてベトナムを訪問したのは 1994 年 4 月、当時のノイバイ空港通関窓口はオープンエアーの掘立小屋と変わらぬ事務所で、これが一国の首都なのかと、度肝を抜かされた記憶がよみがえった。23 年余の時間の流れの中でベトナムが素晴らしい発展を遂げている現実を再認識した。

今回のツアーで HIV 感染による生活困難者、少数民族の貧困生活者、大都市や地方の生活困難者の人達に直接会うことができ、ベトナムの経済成長から取り残され昔のままの生活を強いられている日陰の部分を目の当たりにした。この貧富の差の事実は正しく「百聞は一見に如かず」と感じた。彼らを支援するベトナム人神父やシスターの方々、ハノイのクリスチャンの青年たち、並びに 1 万人の村民の為一人で孤軍奮闘する医師、エイズ患者を無償で診察治療する医師団の方々、市井の中にあり長年支援活動を続けている篤志家の人たちのあり姿を見て、生きる上で最も崇高な助け合いと奉仕の精神を強く学んだ。

少数民族 Hmong 族が生活する、Yen Bai 省の Phinh Ho 村を訪問した、冬には雪も降る高地である。こんなへき地にもただ一人ベトナム人の Phuoc 神父が、地道な布教活動と住民支援活動に努力されていた。簡素な教会は教育施設にも使われているようで、近くに住む子供たちが室内で本を読んだり、遊んだりしていた。住民の収入源はお茶の栽培が主だが、町から買いに来るバイヤーに安く買いたたかれていた。そこで神父が住民からお茶を高く買い、更に加工することで付加価値を高め販売価格を上げる施策を取った為、村の人達のお茶の収入が倍になったそうだ。このお茶を加工する精製機械に対する支援金 20 万円が、安藤さんから神父に手渡された、拍手喝さい感激の一瞬であった。

もう一か所ハノイの青年たちが支援する少数民族の住む Ta Lanh 村も訪問し、貯水用の大きなポリタンクと子供達へお菓子を配給し、生活の実情を視察、来年以降の支援対象先としてノミネートされた。

生活困難者の人々に直接我々の寄付金が届けられることの意義も学習できた。

これらの支援活動を 27 年にわたり実行されてきた安藤代表初めジャパ・ベトナムのメンバーの方々に、心から敬意を表すると共に、この貴重な経験を通して私自身の残された人生どうあるべきか自問自答し、その答えを実践することでわずかでも奉仕のできる人生にしたいと思った。

ベトナム初視察旅紀行

松尾　民博

友に誘われ、物見遊山気分で参加した１４日間のベトナム視察の旅は訪問の先々で私に重い衝撃を与えた。

ジャパ・ベトナムは HIV エイズ患者への活動費を支援しており、初日の訪問先がハノイ郊外の田舎町、エイズ患者やその家族、子供達５０人の集う教会だった．何故エイズに？と話を聞けば父親からの感染とのこと。重労働の鉱山への出稼ぎ中に、きつい労働を回避するために薬物注射にはまり感染し、家族へ拡大し、この８年間に殆どの父親が死亡。母親も罹患し、子供達への感染、発症と貧困の中で不安な日々を生きていた。その最悪な状況下にも関わらず子供たちのキラキラ輝く瞳、明るさに救われると同時に、何とも言えない思いに胸が苦しく痛んだ。

その方々は月に１度教会に集い、悩みや苦しみを吐露しながらも前向きに捉えようと見受けられた。今後は生きる喜びを何か見つけ出すためにも、自分たちの現状を小冊子にしたり、ホームページで世界に発信するなどして知らしめて欲しいと願う。また、これからもジャパ・ベトナムの支援は必要不可欠な大きな光だと思う。

今回のもう一つの柱が少数民族の貧困に喘ぐ人達、特にその子供達への支援の視察である。

ある Binh Phuc 省の修道院は、ジャパ・ベトナムからの支援金で１０００本のゴムの木を植え、大事に育てて７年目の今年から収穫期に入り、収益を生み始めるとのことであった。それらは修道院の寮で生活している少数民族の子供達１００人の経費に充てられるとのことである。その支援で今後入ってくる子供達も含め、彼らが成長し新しい力を生み出しベトナムの発展に貢献することは間違いないであろう。

支援先から援助してもらうのみでなく、自立を目指してプロジェクトに当たり、小さくても成し遂げている様子はほかにも見られ本当にすばらしい行動と思った。その支援しているジャパ・ベトナムの活動に頭が下がります。

追伸

感謝：１日の車での移動の長さや、夏の蒸し暑さには参った１４日間でしたが、夕食後の安藤さんはじめ皆様方と飲んだ濃い甘いベトナムコーヒーとデザートの味は忘れられません。私の心を大いに癒してくれました。視察の旅に参加できたことを大変に嬉しく思ってます。皆様ご苦労様でした！！

ジャパ・ベトナムの教育支援について

渡辺　徹郎

貧しい家庭への教育支援は非常に重要である。貧しい家庭であればあるほど、子どもの学費を捻出する余裕がないため、親は家庭の働き手として子どもを大人と同じように働かせざるを得なくなってしまう。そうして、子どもは子ども時代を過ごすことなく、すぐ大人になってしまう。待っているのは低賃金の仕事ばかりである。そうして大人になった子どもは、また同じ理由から自らの子どもを働かせざるを得ず、貧困は連鎖する。

また、満足な教育が与えられないということは、子どもの将来の選択肢や可能性を奪ってしまうことになる。学校に通えなかったがために、読み書きや計算ができない大人になってしまうと、単に低賃金の仕事に就くというだけでなく、就ける仕事の選択肢が限られてしまう。そうして、その子どもの将来の可能性も大きく制限されてしまうことになるのである。

そういったことを防ぐためにも、貧しい家庭への金銭的支援は必要なのである。今回のツアーではジャパ・ベトナムの教育関係の支援先も訪れた。ロンディエン村にある少数民族の子ども達の寮や、ハウジャン省にある聖ヨセフ小学校、コチャン村の貧しい家庭の子ども達などである。こういった支援先を訪れた際に、最も印象的であったのは子ども達の笑顔であった。出会った子ども達の多くは、はじける笑顔をもって、日本から来た私たちを迎えてくれた。実に美しい、無邪気な笑顔であった。この笑顔に出会った時に、「この笑顔を守らなければいけない」と私は思った。

ジャパ・ベトナムは創立以来、「顔の見える支援」を大切にしてきたが、その理由はこのような気持ちを抱くことにあるのではないだろうか。支援先の人々と直接に顔を合わせ、実際に触れあうからこそ、単なる支援金の送金に留まらない、心のこもったより豊かな支援が可能となるのであろう。

ボランティア募集 ― ホーチミン活動拠点

以前より JAPA Vietnam の支援先との連携を密にして、支援先の状況を十分に把握し、更に効果的な支援活動を検討できるようにしたいと考えてきました。このためにベトナムの中に拠点を持ち活動ができればよいとの意見があり、いくつかの活動スタイルおよび拠点の検討をしてました。その中でホーチミン市にある Dac Lo 修道院（No.171 Ly Chinh Thanh Q3 HCMC）から事務所・教室の有償提供の話があり、何回かの話合いがもたれました。今回のツアーを利用し現地訪問・視察と先方の責任者との会談を持ちました。

事務所•教室の場所は Dac Lo 修道院の敷地内で且つ道路に面して専用の出入口もあり申し分なく、また JAPA Vietnam の看板を出しながらも、Dac Lo 関連の会社の傘下で活動できるメリットもある。大きな問題は費用と人材で先方からは月額 US$500 及び日本人の参加を提示されている。日本語教室なり IT 関連教室なり JAPA Vietnam が実施し収入を得ることも先方提案からは可能だが、現地で何をなし得るか又どの程度の収入が見込まれるか現状では全く予測がつかない現状にある。

しかしながら一つの大きなチャンスであり活動拠点設立の可能性を追求していきたいと考えています。ついては JAPA Vietnam の活動を理解いただいている皆さんの中から、ボランティアでこの現地活動拠点計画に参加出来る方を募集したいと考えています。まだ海のものとも山のものとも漠然とした計画です。この主旨を踏まえ現地での活動にボランティアでご協力をいただける方を募ることにしました。また活動も日本語教室などに限らず広く検討をしたくアイディアがあればご連絡下さい。

ご関心のある方は JAPA Vietnam 事務局・安藤までメールまたは電話にてご連絡ください。お待ちしております。

＊ご協力ありがとうございます＊

2017 年 4 月 1 日～2017 年 9 月 30 日までの会費･寄付納入者のお名前です（敬称略）

イエズス会社会司牧センター	東京都
イエズス会神学院	東京都
匿名	東京都
生田　光輝・英子	京都府
岡山　卓生	東京都
小野　浩美	東京都
カトリックイエズス会	東京都
川越ベトナム人カトリック共同体	埼玉県
岸　秀雄	神奈川県
北島　理江子	東京都
Nguyen Thi Kim Ha	神奈川県
Nguyen Thi Mai	神奈川県
小池　恵美子	東京都
小坂　一代	東京都
桜井　健吾	兵庫県
桜井　崇之	愛知県
佐竹　道子	長野県
塩谷　淳子	東京都
宿澤　恵子	東京都
鈴木　昌範	神奈川県
武市　英雄	神奈川県
高野道郎メモリアル　ジャパナム	東京都
武永　賢	東京都
田山　ジェシー	東京都
辻村　寛行	東京都
戸村　信子	長崎県
永吉　一衣	大分県
根岸　寿	兵庫県
橋本　直樹	神奈川県
Ha Thi Liet Oanh	神奈川県
林　裕美子	兵庫県
原　章子	東京都
樋口　禮治	愛知県
匿名	東京都
藤沢教会ベトナム人共同体	神奈川県
Phuong Lan	東京都
Juan Haidar	東京都
松田　稔	東京都
みさとのパン工房 SAKURA	埼玉県
三好　従子	千葉県
村上　眞樹・道子	東京都
守口　恵子	東京都
大和教会ベトナム人共同体	神奈川県
山本　昌子	東京都
匿名	東京都
四谷ベトナム人カトリック共同体	東京都

☺ 講演会・ツアー報告会を開催します ☺

11 月 19 日（日曜日）13 時 30 分～15 時 30 分
場所　四谷　岐部ホール　404 号室
講演は NPO 日本文化交流プロジェクト代表清水崇彦氏
「日越文化交流：やろうとしたこと / 出来たこと / 出来なかったこと」
詳細は同封別紙の通り（HP、FB 上にも掲載しますのでご参照ください）

― お知らせ ―

●聖ヨセフ小学校の責任者である Truc 神父一行が Nha さんの叙階式に参列のため来日されました。この機会を捉え歓迎昼食会を開き懐かしく楽しい一時を過ごしました。日本には初めて来られた方も多く日本の旅を満喫されている様子でした。聖ヨセフ小学校を創立された神父、聖ヨセフ小学校の教員を長年されている Nha さんの母上はじめご家族の方々、また JAPA Vietnam の活動に協力いただいている Dinh 神父、そして関係者みなさんとの楽しい一時を過ごしました。

●JAPA Vietnam の活動にスタッフメンバーとして参加されている Nha さんが、このたび目出度くイエズス会神父となられました。叙階式は四谷イグナチオ教会で行われました。また同時に JAPA Vietnam の活動に協力いただいている Dinh さんも同時に叙階され神父となられました。

◆◆◆会計報告◆◆◆

（2017 年 4 月 1 日～2017 年 9 月 30 日）

収支明細　　（単位：円）

収入	一般寄付	2,574,155
	（内活動費寄付	48,525）
	利息	7
	小計	2,574,162
支出	支援金	2,130,000
	通信費	12,616
	活動費	18,783
	事務用品費	6,285
	小計	2,167,684
前期繰越金		926,912
当期収支		406,487
次期繰越金		1,333,390

＜支援金・助成金の内訳＞

・助成金　750,000 円

イエズス会神学院　400,000 円（エイズ子供健康保険）
高野道郎メモリアル　300,000 円（少数民族子ども寮、聖ヨセフ小学校、エイズ家庭子供ケアー　各 1,000,000 円）
個人　50,000 円（中学・高校　通学用自転車）

・支援金　2,130,000 円（助成金を含む）

エイズ子供健康保険　400,000 円
少数民族・生茶処理装置　200,000 円
エイズ家庭子供ケアー　100,000 円
少数民族子ども寮　300,000 円
エイズ無料診療所　100,000 円
貧困家庭住居建設　150,000 円
聖ヨセフ小学校　300,000 円
中学・高校通学用自転車　180,000 円
水貯蔵桶・奨学金　220,000 円
少数民族・貧困弱者子ども達へ　180,000 円

JAPA VIETNAM をご支援ください

JAPA VIETNAM にご支援いただくには、以下の三つの方法があります。

●一般会費　　年間１口（2000 円）以上
●賛助会費　　金額・時期ともご自由に
●活動費寄付　活動費の支援（金額自由）

どれになさるかはご自由にお選びください。
ご都合に応じてご送金いただければ幸いです。
会費をお振込みいただいた方には、振込の半券で領収書とさせていただいております。領収書が必要な方は、振込用紙の通信欄の「□領収書必要」の□にチェックを入れてください。
事務費削減にご協力いただけると幸いです。

【ご送金は郵便振替で】
00100 - 8 - 118761
JAPA VIETNAM

◆

【銀行をご利用の場合は】
三菱東京 UFJ 銀行　四谷三丁目支店
東京女子医大出張所
普通預金　3544236
JAPA VIETNAM 代表　安藤勇

会報名『チャオ・ベトナム』について

「チャオ」（**chào**）とはベトナム語で「こんにちは」という意味です。『チャオ・ベトナム』というタイトルには、ベトナムの人たちと友情のネットワークを築いていきたい―という、私たちの願いがこめられています。

ベトナムの未来にあなたの力を

ジャパ・ベトナム
（日本ベトナム民間支援グループ）
JAPA VIETNAM
(JApanese group of Private Assistance to VIETNAM)

〒102-0083　東京都千代田区麹町 6－5－1
岐部ホール 4 階
イエズス会社会司牧センター内

◆

電話　03-5215-1844
FAX 03-5215-1845

◆

e-mail:japavietnam2014@gmail.com
http://www.japa-vietnam.org/